

自己点検・評価項目

日本語教育機関名	日生日本語学園名古屋
点検及び評価実施日	毎年 3 月末
実施責任者	校長
実施担当者	校長・教務主任・事務局長

日生日本語学園名古屋

自己点検・評価項目について

項目は、教育活動を支える設置者及びそのマネジメントに関する部分と、運営に関する部分から成っている。前者には大項目として理念・教育目標、組織、財務、教育環境、安全・危機管理、法令の遵守等を設け、後者には運営全般、学生募集、教育活動、学生支援、教育成果を設けている。大項目の下には、それぞれ中項目、及び小項目を設定している。

点検に際しては、まず小項目を点検・評価し、それを中項目ごとにまとめる。そして大項目で達成状況、課題、改善計画等を記述する。

小項目の評価は、以下の分類とし、[]に記号を記入する。

- A : 達成されている。
- B : ほぼ達成されているが、不十分なところがあり改善に取り組んでいる。
- C : 達成に向けて努力している。
- D : 達成されていない／必要性に気づいていなかった。
- X : 該当しない。

自己点検・評価項目

第1 設置者及びマネジメント

1 理念・教育目標

1-1 理念と教育目標

[A] 1-1-1 <理念>

世界各国からの留学生に対し、日本での勉強および生活を通じ、日本社会のよき理解者の育成を行うとともに、将来、日本社会の中で自律・共存し、自ら道を拓いていける人材を育成することを目指す
また、教職員の主体的に学ぶ姿勢を重視し、教職員の成長が学生の成長につながるよう支援する

[A] 1-1-2 <教育目的>

留学生が日本社会の中でつながりを持ちながら、自らの力でキャリアを形成するために必要な力を育てる

[A] 1-1-3 <教育目標>

以下の3つの力を主に身につけさせる

①つながる力の育成

周囲の人との関わり、地域との関わりを大切にするために、日本の社会に参入、参加、参画する際に必要な知識、他者への配慮、コミュニケーションの方法を身につけ、社会の中で居場所を作る力を育てる

②まなぶ力の育成

学ぶ姿勢を身につけ、自分で目標設定、学習管理ができるようにする。
日本でキャリア形成をしていく上で自己をみつめなおす力、仕事や資格など進路選択に必要な情報を収集する力、経費支弁や日程の計画力をつけ、自分に必要な選択ができるようにする。

③ことばの力の育成

つながること、自分の未来を作ることができるよう5つの言語分野、言語方略をCandoを達成することで
言語運用能力を高めていく

[A] 1-1-4 理念と教育目標が教職員、学生に周知されている。

1. 理念・教育目標について

理念をもとに、以下の3点を教育目標とし注力する

日本語を用いてさまざまな言語活動を行う際に必要となる「ことばの力」

日本の社会に参入、参加、参画する際に必要となる「つながる力」

自分自身の学びを自己管理しながら 自らの学びを継続していく際に必要となる「まなぶ力」

2 組織

2-1 組織態勢

[A] 2-1-1 設置者、設置代表者及び経営担当役員は、「日本語教育機関の運営に関する基準」で定められた要件に適合している。

[A] 2-1-2 事業規模に応じた組織態勢になっている。

[B] 2-1-3 受け入れようとする学生の言語に対応できる組織となっている。

まとめ

英語、ベトナム語、シンハラ語、韓国語、中国語それぞれ意思疎通のできるスタッフを常駐している。
その他の言語を使用する国に関しては、英語を第2言語とする学生もしくは英語での意思疎通が可能な学生を中心に学生募集を行う。
また、送り出し機関との連携も密に行う。

2-2 教員組織

[A] 2-2-1 校長、主任教員及び教員は、「日本語教育機関の運営に関する基準」で定める要件を備えている。

[A] 2-2-2 校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限が明確に定められている。

[A] 2-2-3 教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質が明示されている。

まとめ

定期的な会議を通じて授業の目標、各自の役割、教師の資質などをフィードバックしており、教員同士の知識やテクニック、現状などが共有できている。

- 2-3 事務組織
- [A] 2-3-1 生活指導責任者及び入管事務担当者が特定され、その職務内容及び責任と権限が明確に定められている。担当者が複数名の場合は、責任者が特定され、それぞれの責任と権限が明確化されている。
- [A] 2-3-2 生活指導責任者及び入管事務担当者が学生及び教職員に周知されている。
- [A] 2-3-3 出入国在留管理局により認められた申請等取次者を配置している。

まとめ 生活指導及び入管事務担当者を複数名配置し、その職務を遂行している。教育指導と生活指導は教務と事務局で分離をしながらも協力し合い遂行し、お互い情報共有を頻繁に行っている。

- 2-4 採用と育成
- [A] 2-4-1 教員及び職員の採用方法及び雇用条件が明文化されている。
- [A] 2-4-2 教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取組をしている。
- [A] 2-4-3 教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振る舞い、ハラスメント防止等に関する研修を行っている。
- [A] 2-4-4 教員及び職員の評価を適切に行っている。

まとめ 参照枠、教科書研究に関する内部、外部の研修に積極的に参加している。また、コンプライアンス研修で具体的な事例を挙げ、理解、遵守を促し、誓約書の取り付けを行い、規律正しい環境を保持するようにしている。

2. 組織について
教師である前に一社会人であることを前提に協調性、社会性を持って仕事に臨むことが必要と考えている。また、教員と職員の業務分掌をおこない、それぞれが専門性をもって業務に取り組み、重要な事項は共有を頻繁に行っている。

3 財務

- 3-1 財務状況
- [A] 3-1-1 財務状況は、中長期的に安定している。
- [A] 3-1-2 予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。
- [A] 3-1-3 適正な会計監査が実施されている。
- [A] 3-1-4 入学者の募集や生徒の入学手続の支援等を行う者に対して支払った仲介手数料は適正である。

3. 財務について
3ヶ年計画をたて、それに基づき運営している。
現状、計画通り運営できている。
また、設置者である母体の会計監査は月に1度執り行っている。
入学者の募集や生徒の入学手続の支援等を行う者に対して支払った仲介手数料に関しては学費の1割程度を目安に設定している。

4 教育環境

- 4-1 校地、校舎
- [A] 4-1-1 教育機関として適切な位置環境にある。
- [A] 4-1-2 安定的に教育活動を継続するための校地及び校舎が整備されている。
- [A] 4-1-3 校舎面積は、「日本語教育機関の運営に関する基準」に適合している。

まとめ 当校は「名古屋市」という日本三大都市に位置しており、繁華街もあり大変栄えている都市ではあるが、学校及び学生寮近辺は閑静で治安の良いとされる地域に位置しており、勉学、生活共に安定した教育活動を継続することが可能である。

- 4-2 施設、設備
- [A] 4-2-1 教室、その他の施設は、「日本語教育機関の運営に関する基準」に適合している。
- [A] 4-2-2 教室内は、十分な照度があり、換気がなされている。

- [B] 4-2-3 すべての教室は、語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されている。
- [A] 4-2-4 授業時間外に自習できる部屋が確保されている。
- [A] 4-2-5 教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備され、常時利用可能である。
- [A] 4-2-6 視聴覚教材や IT を利用した授業が可能な設備や教育用機器が整備されている。
- [B] 4-2-7 教員及び職員の執務に必要なスペースが確保されている。
- [A] 4-2-8 同時に授業を受ける学生数に応じたトイレが設置されている。
- [A] 4-2-9 法令上必要な設備等が備えられている。
- [B] 4-2-10 廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状である。
- [D] 4-2-11 バリアフリー対策が施されている。

まとめ

授業ではプロジェクターを使った活動を中心に行っているため、すべての教室にパソコンとプロジェクターが配置されている。

各階にエレベーターはあるが、小階段もありバリアフリーの環境とは言えない。

建物構造の変更は容易ではない為、スロープの常備等考慮が必要。

4. 教育環境について

全教室に窓があり、十分な照度がある。エアコンも設置されている。

授業時間外に自習できる部屋もある。

5 安全・危機管理

5-1 健康・衛生

- [A] 5-1-1 健康、衛生面について指導する態勢を整えている。
- [B] 5-1-2 対象となる学生全員が国民健康保険に加入し、併せて、留学生保険にも加入している。
- [B] 5-1-3 重篤な疾病や傷害のあった場合の対応を定めている。
- [A] 5-1-4 感染症発生時の措置を定めている。

まとめ

各時期による健康、衛生面の指導をおこなっている。

重篤な疾病や傷害があった際は、事務局スタッフが対応し、併せて現地エージェント、両親にも連絡をする。

留学生保険には加入していないが傷害・賠償・家財保険に加入している。

5-2 危機管理

- [B] 5-2-1 危機管理態勢が整備されている。
- [A] 5-2-2 火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所等を定めている。
- [A] 5-2-3 気象警報が発令された場合の措置を定めている。
- [A] 5-2-4 災害等に対する避難訓練を定期的実施している。
- [B] 5-2-5 防災用品が備蓄されている。

まとめ

連絡手段の通知、定期的な避難訓練は行っているものの、防災用品の備蓄は現状行っていない。また、学生自ら借りているアパートで災害にあった場合の避難場

所の確認をするまでに至っていない。被災時の安否確認は今後アプリを使ってリアルタイムにおこなう予定。

5. 安全・危機管理について

連絡手段の通知及び避難訓練は引き続き取り組んでいく。

学生自身で契約しているアパートの避難場所の確認の呼びかけは毎年しているものの、認知の確認まで至っていない。

6 法令の遵守等

6-1 法令の遵守

[A] 6-1-1 法令遵守に関する担当者を特定している。

[A] 6-1-2 教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行っている。

[A] 6-1-3 個人情報保護のための対策がとられている。

[A] 6-1-4 出入国在留管理局、関係官庁等への届出、報告を遅滞なく行っている。

6. 法令の遵守等について

就労規則等に関しては全教職員が確認のできる場所に保管している。

個人情報に関しては、資料は基本的に鍵のかかる棚や机に保管しており、使用済書類に関しては裁断機にて裁断をおこなっている。

出入国在留管理局、関係官庁等への届出、報告は開校当時より遅延なく行っている。

第2 運営に関する事項

7 運営全般

7-1 組織的な運営

[A] 7-1-1 短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されている。

[A] 7-1-2 管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営がなされている。

[A] 7-1-3 意志決定が組織的になされ、かつ、効率的に機能している。

[A] 7-1-4 予算編成が適切になされ、執行ルールが明確である。

[A] 7-1-5 業務の見直し及び効率的な運用の検討が定期的、かつ、組織的に行われている。

まとめ

口頭での通達、通知はあるものの書面での案内や周知には至っていないのが現状である。

7-2 納付金

[A] 7-2-1 入学検定料、入学金、授業料及びその他納付金の金額及び納付時期が明示されている。

[A] 7-2-2 学費以外に入学後必要になる費用が明示されている。

[A] 7-2-3 関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されている。

まとめ

入学選考料、入学金、授業料及びその他納付金は募集活動時及び HP にて随時公開し、各種日本語に関する外部テストや証明書発行手数料など学費以外に必要な費用は学生募集時に説明したうえで、入学時のオリエンテーションにおいても書類明記の上再度説明している。

7-3 情報の共有化及び発信

[A] 7-3-1 外部からの情報提供が効率的になされ、かつ、共有化する仕組みがある。

[A] 7-3-2 内部からの情報発信が効率的に行われている。

[A] 7-3-3 入学希望者・学習者及びその利害関係者（経費支弁者等）の理解できる言語で情報提供を行っている。

まとめ 学生や入学希望者への情報は日本語または英語もしくは母国語で情報発信をしている。大事な事項に関しては相手と何度も連絡を取るようになっている。

7. 運営全般について

5 年計画を策定し、それに向けて運営している。

また、入学を希望する学生や経費支弁者、各エージェントが必要とする情報を随時公開し閲覧できるようにしている。

8 学生募集

8-1 募集方針

[A] 8-1-1 理念・教育目標に沿った学生の受入方針を定め、年間募集計画を策定している。

[A] 8-1-2 募集定員を定めている。

[A] 8-1-3 機関に所属する職員が入学志願者に対して情報提供や入学相談を行っている。

まとめ 直接現地へ出向き、学校の説明、生活サポートに関しての情報提供をパンフレットやPV など分かり易い形にして、通訳を交え行っている。

8-2 募集活動

[A] 8-2-1 教育内容、教育成果を含む最新、かつ、正確な学校情報が入学希望者の理解できる言語で開示されている。

[A] 8-2-2 求める学生像を明示している。

[A] 8-2-3 応募資格及び条件を入学希望者の理解できる言語で明示している。

[A] 8-2-4 募集活動を行う国・地域の法令を遵守した募集活動を行っている。

[A] 8-2-5 海外の募集代理人（エージェント等）に最新、かつ、正確な情報提供を行っている。

[A] 8-2-6 海外の募集代理人（エージェント等）の行う募集活動が適切に行われていることを把握している。

まとめ 応募者やエージェントへの情報提供をもれなくおこなっている。
毎年現地へ出向き、エージェントならびに学生への説明会を直接実施。
学習環境の確認やエージェントとの打ち合わせ、学生への募集活動をおこない、適正な教育を行っているか見極めたうえで契約を結んでいる。
学習実態の確認できないエージェントとは契約をしていない。

8-3 入学選考

[A] 8-3-1 入学選考基準及び方法が明確化されている。

[A] 8-3-2 学生情報を正確に把握し、及び提出書類により確認を行っている。

[A] 8-3-3 入学選考を行う態勢が整備されている。

[A] 8-3-4 受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認している。

まとめ 入学希望者には対面にて面接、もしくはビデオツールでの面接を行い入学に必要な日本語能力を有しているか、学習意志や学習ニーズがあっているか、日本語参照枠に照らし合わせ、独自で作成した面接表を参考に面接をしたのち、再度提出書類にて確認をしている。

8. 学生募集について

経営担当役員自らがアジア各地にある日本語教育機関を年間 100 校以上訪問し、教育環境や体制を実際に確認したうえで受け入れる教育機関や学生を選抜しており、エージェントと連携したサポートをしている。また、面接時には直接学生本人の意志や希望を聞き、当校の学習ニーズと合致しているのか選考している。

9 教育活動

9-1	企画	
[A]	9-1-1	理念・教育目標に合致したコース設定が行われている。
[A]	9-1-2	教育目標達成に向けた教育内容、教育方法及び進度設計がなされている。
[A]	9-1-3	レベル設定に当たっては、国内で又は国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしている。
[A]	9-1-4	教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている。
[A]	9-1-5	カリキュラムは、体系的に編成されている。
[A]	9-1-6	教育目標に合致した教材が選定されている。
[B]	9-1-7	補助教材、生教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、著作権法に留意している。
[A]	9-1-8	授業に関する学習リソース及び情報を、授業開始までに教員に提供している。
[A]	9-1-9	教員配置が適切になされている。
	まとめ	教育目標、教育方法、教育内容、カリキュラム等、常勤だけでなく非常勤講師を交えて教員間で定期的に会議や研修をおこなうことにより共通認識を常に持つようにしている。
9-2	実施	
[A]	9-2-1	授業開始までに学生の能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。
[A]	9-2-2	教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している。
[A]	9-2-3	開示されたシラバスによって授業が行われている。
[A]	9-2-4	修了の要件が定められ、学生の理解できる言語によって明示されている。
[A]	9-2-5	教育内容に応じて教育用機器を活用している。
[A]	9-2-6	授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録している。
[A]	9-2-7	理解度・到達度の確認が実施期間中に適切に行われている。
[A]	9-2-8	学生の自己評価を把握している。
[A]	9-2-9	個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援が行われている。
[C]	9-2-10	特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けている。
[A]	9-2-11	授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処している。
[A]	9-2-12	学習内容、時間割と学年暦、成績判定の基準と方法、学習上の留意点、留学生活上の留意点、入管法上の留意点とこれらについての相談担当者名が記載された文書を、入学時に学生に配布している。
	まとめ	入学時にオリエンテーションをおこない、学校での規則や生活面での規則を各言語にて説明。また、オリエンテーションで説明した内容を記載した冊子も一人一人に渡している。 授業に関しては全授業でパワーポイントを使用するため、各教室にプロジェクターが設置され、教員には一人に一台パソコンが与えられている。
9-3	成績判定	
[A]	9-3-1	判定基準及び判定方法が明確に定められ、開示されている。

[A] 9-3-2 成績判定結果を的確に学生に伝えている。

[A] 9-3-3 判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している。

まとめ 中間テスト、期末テストごとに結果を通知し、また学期が終わる際に成績表を配布している。判定基準や方法に関しては学生に定期的に通達している。

9-4 授業評価

[A] 9-4-1 授業評価を定期的に行っている。

[B] 9-4-2 評価態勢、評価方法及び評価基準が適切である。

[A] 9-4-3 学生による授業評価を定期的に行っている。

[A] 9-4-4 評価結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組に反映されている。

まとめ 学生に対してクラス活動や担当教師についてのアンケートを実施している。

9. 教育活動について

クラスを国籍、男女が偏らないように編成し、多文化に配慮しながら日本語でコミュニケーションをとる環境づくりをおこなっている。
JLPT については個人の受験級に合わせたクラス編成をおこない、目標に向かって学習できるようにしている。

10 学生支援

10-1 支援態勢

[A] 10-1-1 学生支援計画を策定し、支援態勢が整備されている。

[A] 10-1-2 休日及び長期休暇中の学生対応ができています。

まとめ 長期休暇中も職員が最低 1 人はすぐ動けるように予定を組んでいる。
学生にも勉学での支援は教務に、生活に関する事、ビザ関連書類に関する支援は事務局職員に相談するなどの区別を入学時から教え、スムーズに対応ができるようにしている。

10-2 日本社会を理解し、適応するための支援

[A] 10-2-1 入学直後のオリエンテーションを実施している。

[A] 10-2-2 生活に関するオリエンテーションを実施している。

[A] 10-2-3 地域交流や地域活動を実施している。

まとめ 入学直後に、生活や学校の就学規則などのオリエンテーションを言語別に行っている。また一度のオリエンテーションでは覚えきれないところもあるため、日頃より定期的に指導している。

10-3 生活面における支援

[A] 10-3-1 住居支援を行っている。

[A] 10-3-2 アルバイトに関する指導及び支援を行っている。

[A] 10-3-3 交通事故等の相談態勢が整備されている。

[A] 10-3-4 定期的に健康診断を実施している。

[A] 10-3-5 学生全体の生活状況について定期的に調査している。

まとめ 引越し、アルバイト等の変更に関しては都度報告を絶対としている。
また、アルバイト収入一覧を作成させ、報告漏れや就業時間を厳守しているか確認をしている。

事故に関しても即時学校へ連絡をするように通達・指導している。
事件事故が起こったときの対応も職員会議にて取り決めている。
健康診断に関しても年に1度健康診断(胸部X線診断・・・結核診断)及びインフルエENZA予防接種をおこなっている。

10-4 進路に関する支援

- [A] 10-4-1 進路指導担当者が特定されている。
- [A] 10-4-2 学生の希望する進路を把握している。
- [A] 10-4-3 進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にある。
- [A] 10-4-4 入学時からの一貫した進路指導を行っている。

まとめ

進路指導は各担当が責任をもち、学生の希望や日本語能力、学費等を鑑み指導をしている。全体の進路指導状況に関しても定期的に教職員で情報共有しながら進路指導をしている。

進学や就職の進路に関する最新の資料も職員室に備えられ、自由に閲覧、貸出できるようにしている。

10-5 入国・在留関係に関する指導及び支援

- [B] 10-5-1 担当者は、研修受講等により適切な情報取得を継続的に行っている。
- [A] 10-5-2 入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っている。
- [A] 10-5-3 在留に関する学生の最新情報を正確に把握している。
- [A] 10-5-4 在留上、問題のある学生への個別指導を行っている。
- [A] 10-5-5 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組を継続的に行っている。
- [B] 10-5-6 過去3年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させていない。

まとめ

入管より説明会の案内があれば参加し、情報を得るようにしている。
また、入管からの案内に関しては都度学生へ通達し、認識させるようにしている。

10. 学生支援について

普段より相談があれば時間の限り受ける様、心がけている。言葉に発する事と内心とが違う学生も多くいるため、普段の様子と違う場合はこまめに声をかけ心のサポートをするようにしている。

11 教育成果

11-1 成果の判定

- [A] 11-1-1 進級及び卒業判定が適切に行われている。
- [A] 11-1-2 日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握している。

まとめ

すべての結果を書面及び電子機器に保存している。
日本語能力試験は必須とし、日本留学試験、その他試験は進路指導上必要であるとした学生に進めている。

11-2 卒業生の状況の把握

- [B] 11-2-1 卒業生の状況を把握するための取組を行っている。
- [A] 11-2-2 卒業後の進路を把握している。
- [B] 11-2-3 進学先、就職先等での状況や卒業生の社会的評価を把握している。

まとめ

卒業生とは密にSNSを使用し、連絡を取るようにしている。

また、各進学先の担当者とも定期的に連絡を取り合い、卒業生の学校での様子や状況を確認している。

11. 教育成果について

希望する進学先への進学が可能な学生ばかりではないので、将来希望する職種と近い分野での教育を受けられる学校で、より良いところを紹介できるように心がけている。
学生からも入念に聞き取りをし、進学先のアドバイスをしている。

自己点検・評価

日本語教育機関名：日生日本語学園名古屋

点検・評価実施日：毎年 3 月

実施責任者：湯浅 千秋

実施担当者名(役職)：湯浅 千秋 (校長)、柳澤 早恵(教務主任)、小林 徳保 (事務局長)

当校は日本語を教えるだけではなく、日本の習慣やルール、日本で生活をする為に必要な諸々の事を、常日頃から学生に指導するように心がけている。

学生一人一人と向き合い、文化や習慣の違いを超えて、より良い関係性を持てるように努力している。

その為、日頃より教員、事務職員ともに情報交換や情報共有を密に行い、学生に一貫した対応が取れるようにしている。

また、教育の質を高めるため、教務会議にて課題の提示、解決方法、方向性の再確認などが常に行われている。

学生からも授業の進め方や諸々のアンケートを取り、双方の意見を参考により良い学習環境を作り上げていくようにしている。

そして、能力毎にクラスを設け、学期ごとの能力変移におけるクラス替えや JLPT 合格などの明確な目標を設置し、学生自身向上心を持って日本語習得に臨むような工夫をしている。

全体的に学生への直接的な通達や SNS での告知、通知をおこなっており、今後は LMS でいつでも閲覧できるように改善を進めている。

*大項目 1 から 11 を総括し、自由に記述。